

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年9月20日(2007.9.20)

【公開番号】特開2001-146568(P2001-146568A)

【公開日】平成13年5月29日(2001.5.29)

【出願番号】特願2000-272655(P2000-272655)

【国際特許分類】

C 0 9 D 163/00 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 163/00

C 0 9 D 5/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月6日(2007.8.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

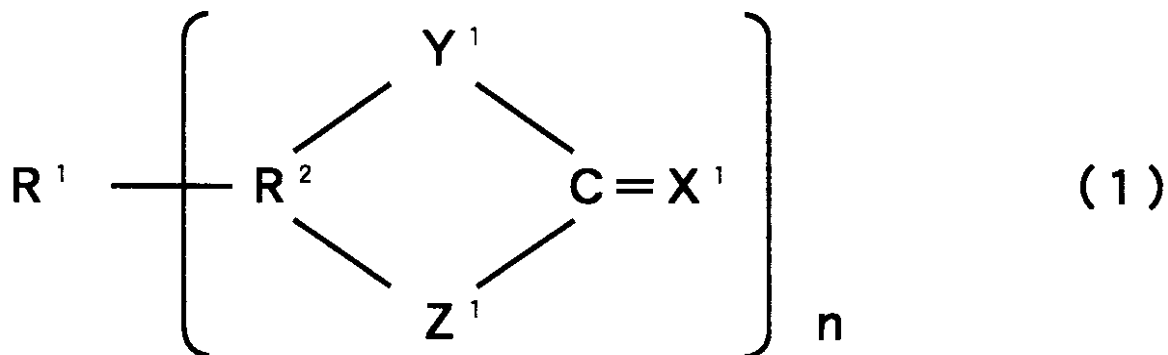
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記一般式(1)で表されるヘテロ環含有化合物(A)、ポリエポキシサイド(B)、及び水との反応により1級及び/又は2級のアミノ基を生成する化合物(C)からなることを特徴とするコンクリートプライマー。

一般式

【化1】



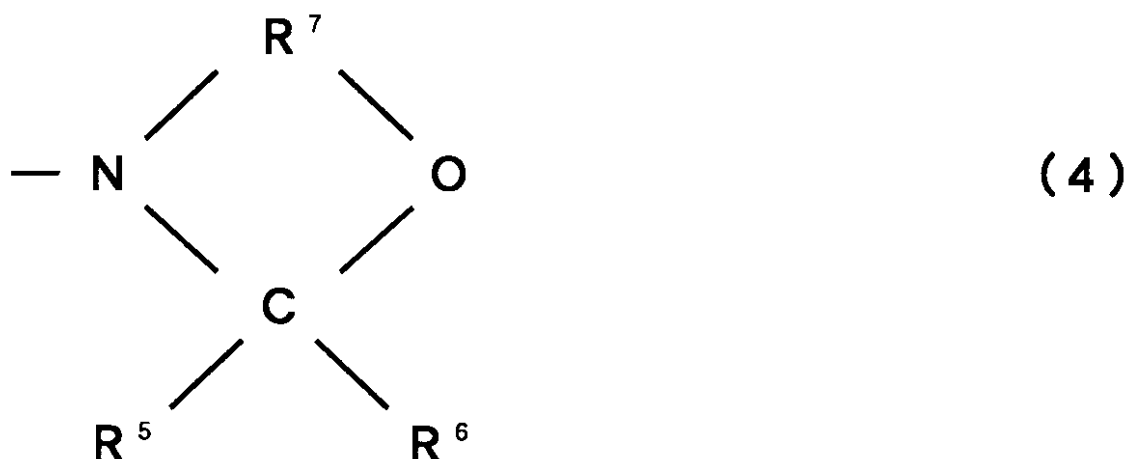
[式(1)中、nは1~10の整数、X¹、Y¹及びZ¹は、それぞれ独立に酸素又は硫黄原子；R¹は環状エーテル基含有化合物(D)の残基又は水素原子；R²は炭素数2~10の炭化水素基である。]

【請求項2】 前記(C)が、1級アミン及び/もしくは2級アミンと水酸基を含有する化合物(cX)とカルボニル化合物(cY)の脱水縮合物である請求項1記載のコンクリートプライマー。

【請求項3】 前記(C)が、分子内に下記一般式(4)で示されるヘテロ環基を少なくとも2個有するヘテロ環含有化合物(C1)からなる請求項2記載のコンクリートプライマー。

一般式

【化2】

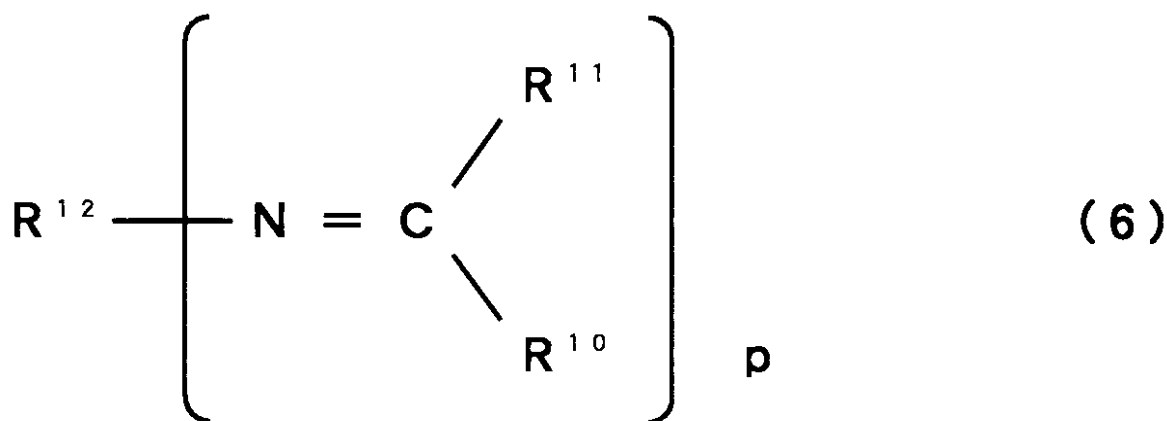


[式中、 R^5 と R^6 はそれぞれ独立に、水素原子、直鎖もしくは分岐の炭素数1～6のアルキル若しくはアルケニル基、又は炭素数6～10のアリール基であり、 R^5 と R^6 が結合して炭素数5～7のシクロアルキル環を形成していてもよい。 R^7 は炭素数1～10のアルキレン基を表す。]

【請求項4】 前記(C)が、下記一般式(6)で表されるケチミン化合物(C2)からなる請求項2記載のコンクリートプライマー。

一般式

【化3】



[式中、 p は2～10の整数； R^{10} と R^{11} はそれぞれ独立に、水素原子、直鎖もしくは分岐鎖の炭素数1～6のアルキル基もしくはアルケニル基、又は炭素数6～8のアリール基であり、 R^{10} と R^{11} が結合して炭素数5～7のシクロアルキル環を形成していてもよい。 R^{12} はアミノ化合物(E)の残基を示す。]

【請求項5】 前記(C)が、請求項3記載の(C1)及び請求項4記載の(C2)の混合物である請求項2記載のコンクリートプライマー。

【請求項6】 前記コンクリートプライマーにおいて、(B)のエポキシ基1当量に対して、(C)が基が水分により分解して生じる活性水素の量が0.5～2.0当量である請求項1～5のいずれか記載のコンクリートプライマー。

【請求項7】 さらに、前記プライマーに、脱水剤、可とう性付与剤、接着性付与剤、硬化促進触媒、充填剤、可塑剤、着色防止剤、レベリング剤、酸化防止剤、顔料、分散剤、反応性希釈剤、溶剤、保水剤、湿潤剤、及び界面活性剤からなる群から選ばれる1種以上の添加剤が配合されてなる請求項1～6のいずれか記載のコンクリートプライマー。

【請求項 8】 流しのべ工法、モルタル工法、ライニング工法、コーティング工法からなる群から選ばれる請求項 1～7 のいずれか記載のコンクリートプライマーの施工方法。

【請求項 9】 請求項 1～7 のいずれか記載のコンクリートプライマー、コンクリート、上塗り塗料からなるコンクリート構造体。

【請求項 10】 請求項 1～7 のいずれか記載のコンクリートプライマーに充填材を配合してなるコンクリート用ノンプライマー型上塗り塗料。

【請求項 11】 請求項 10 のノンプライマー型上塗り塗料及びコンクリートからなるコンクリート構造体。